

ミヤ・アンドウ

Kuu / 空

作家名 | Miya Ando (ミヤ・アンドウ)
展覧会名 | Kuu / 空
会期 | 2020年10月31日(土) - 12月26日(土)
会場 | MAKI Gallery / 天王洲, 東京



Miya Ando, *Unkai (Sea of Clouds)* 48.89.5, 2020, dye on aluminum composite, 121.9 x 227.3 cm

この度MAKI Gallery / 天王洲, 東京 では、ニューヨークを拠点に活動するミヤ・アンドウの個展「Kuu / 空」を開催いたします。アンドウは金属や布、木材などさまざまな素材を‘キャンバス’に、森羅万象を描いています。平面、立体、そしてインスタレーションなど彼女の作品は形態も多様です。しかし一貫しているのは、異なる文化や要素を作品に共存させていることです。その背景には、日本人とアメリカ人を両親にもち、2つの文化を深く理解していることがあります。そのなかで育まれた自然観・世界観は、彼女の表現を豊かにしています。

「Unkai (雲海)」や「Kumo (雲)」など、アンドウの描くモチーフは、形があるようでない、いわば現象です。彼女の作品はまるで、私たちが見ている物が本当に存在するの否かを問いかけているようです。実際、水蒸気の塊である雲は常に形を変え、ひとときも同じであることはありません。さらに興味深い点は、それらが硬質な金属に描かれていることにあります。アンドウは、このように異なる要素を1つの作品として昇華させていますが、そこで刹那的な存在の美しさ、はかなさを私たちに思い起こさせるのです。

金属さえも、長い年月のうち変化を余儀なくされます。しかしながらアンドウはそこに潜む光に魅了されています。「金属という素材に私はとても関心をもっています。短期間での物質的变化はほとんどないのですが、観る人たちが動くことによって光が反射し、一刻一刻と見え方が変わります。光を放つ存在だけでなく、銀や

アルミは目の前の世界を映し出すことで、そこに存在しなくなる、言い換えればvoid（空）のような在り方となる点も興味深いです」（アンドウ）。金属への深い理解は、彼女の祖先が岡山県の刀匠であったということも影響しています。

一方で今年になってアンドウは伝統的な染料である藍も作品に取り入れました。深い藍染の色は、夜、海、宇宙を想像させます。何もないようでありながらすべてを包み込む色彩は、日本の伝統的な色でもあり、作家にとって日本、とりわけ幼少の頃住んだ岡山県と結びつく色なのです。

本展のタイトル「Kuu / 空」は、こうしたアンドウの作品を語るうえで、包括的な概念といえます。「すべてのものは永続性がなく、固定した性質をもちません。その意味でそれらは‘存在しないもの=Kuu（空）’と考えることもできるでしょう。実際の天空としての‘Kuu（空）’にも、すべてを受け入れることが可能な空（から）の状態を表す‘Kuu（空）’にも興味があります。つまりはaether/air/void^{*1}などと呼ばれる世界をつくる基本要素としての‘Kuu（空）’は、私にとって常に強い興味を抱かせるものであり、焼杉作品、銀の鏡の作品、藍の作品、すべてはこの概念を探求しているのです」（アンドウ）。これまでにない規模で開催される本展において、ギャラリーの空間はアンドウの感性が紡ぎ出す水、土、木、火、空、雲、蒸気、森、月、銀河で満たされるでしょう。今年、ロサンゼルス・カウンティ美術館（LACMA）をはじめ多くの美術館に作品の収蔵が決まるなど、世界的に注目度の高いアーティスト、アンドウをご紹介できるこの機会に、ぜひ彼女の世界観を感じていただけますと幸いです。

*1 ギリシャ哲学で提唱されていた「空気・火・土・水」の四大元素にアリストテレスが「エーテル」を加え天体を構成する要素として提唱した。インドのアーユルヴェーダでは、「空・風・火・水・地」を五大元素として物質の状態を表す。仏教で説かれる五大元素は「地・水・火・風・空」であり、この時の空はvoidと記される。

ミヤ・アンドウ



1973年カリフォルニア州ロサンゼルス生まれ。カリフォルニア大学バークレー校で東アジア学の学士号を取得後、イェール大学で仏教に関する図像学を学び、さらに岡山県の金工師の下で技術を習得しました。

アンドウは鉄、アルミ、木などさまざまな素材を使い、抽象的な絵画や彫刻、インスタレーションなどを制作しています。彼女はポスト・ミニマリストとしても知られており、代表的なものとして金属の平面に色彩を施した作品があります。鋼鉄やアルミニウムに熱を加え、色を重ね、ラッカーや薬品を塗り、研磨し、さらに磨いて艶を出すことで、それら金属の表面には海や空や雲を連想させるような微妙な色のグラデーションが現れ、観るものに作家のもつ独特の世界観を伝えます。

「Form is Emptiness, Emptiness is Form（色即是空、空即是色；『般若心経』より）」「Sky/Emptiness（Sora/Ku；空）」「72 Kō（七十二候；1年を72に分割する古い日本の暦）」など、これまでの展覧会タイトルからもわかるように、仏教的な世界観と日本の伝統的な自然観が彼女の作品には込められています。また、アメリカ人と、備前刀匠の末裔である日本人とを両親にもち、幼少期を北カリフォルニアの田舎と、母方の祖父が住職を務めていた日本の寺院とを行き来して過ごしたことも大きく影響しています。アンドウは伝統と現代、産業と自然、東洋と西洋を巧みに融合させ、繊細な感性で自然の在りようを作品に映しだしています。

最近開催された個展は、「Form is Emptiness, Emptiness is Form（色即是空、空即是色）」アジア・ソサエティ・テキサスセンター（ヒューストン、2019年）、「Miya Ando」Sundaram Tagore Gallery（ニューヨーク、2019年）、「Clouds（Kumo；雲）」Kantor Gallery（ロサンゼルス、2019年）ほか、2018年にはイサム・ノグチ美術館でも行われています。ほかにもHaus der Kunst（ミュンヘン、2019年）、ロサンゼルス・カウンティ美術館（ロサンゼルス、2017年）などのグループ展にも参加しています。そして2015年、彼女の大規模なインスタレーション「Emptiness The Sky（Shou Sugi Ban；焼杉板）」は、第56回ベネチアビエンナーレ国際美術展「Frontiers Reimagined」で展示されました。そしてロサンゼルス・カウンティ美術館（ロサンゼ

ルス)、Haus der Kunst (ミュンヘン)、Berkowitz Collection (マイアミ) など、パブリックあるいはプライベート・コレクションに多数収蔵されています。さらに、ロンドンのエリザベス女王オリンピック公園に恒久的に設置され、2015年のマーシュ公共彫刻賞 (Marsh Award for Excellence in Public Sculpture) の最終選考に残った「After 9/11」をはじめ、数多くのパブリック・アートを生み出しています。



Miya Ando
The Cathedral
 (The Shrine of Trees, The Sisters and The Mother)
 2018
 Silk chiffon, charred redwood, acrylic rods
 304.8 x 320.0 x 320.0 cm

Miya Ando
Alchemy (Shou Sugi Ban) Cube 3.19.12.9
 2019
 Solid charred redwood, silver nitrate
 30.5 x 30.5 x 30.5 cm

MAKI Gallery / 天王洲, 東京

〒140-0002
 東京都品川区東品川1-33-10-1F
 Tel: 03-6810-4850
 Fax: 03-6810-4851
 E-mail: info@makigallery.com

営業時間: 火~木曜、土曜 11:00~18:00 / 金曜 12:30~20:00
 定休日: 日曜・月曜

*本企画に関するお問い合わせは下記までお願い致します。